

# 商工会議所 L O B O ( 早期景気観測 )

- - 平成 1 9 年 4 月調査結果 - -

( 平成 1 9 年 4 月 2 7 日 )

調査期間：平成 1 9 年 4 月 1 6 日 ~ 2 0 日

調査対象：全国の 4 0 7 商工会議所が 2 5 8 1 業種組合などにヒアリング  
( 内訳 ) 建設業 3 7 7 製造業 6 1 9 卸売業 2 3 6  
小売業 7 3 6 サービス業 6 1 3

調査項目：今月の売上・採算・業況などについての状況 ( D I 値を集計 )  
及び、業界として当面する問題など

## D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = ( 増加・好転などの回答割合 ) - ( 減少・悪化などの回答割合 )  
業況・採算 : ( 好転 ) - ( 悪化 )      売上 : ( 増加 ) - ( 減少 )

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 3 6  
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ( <http://www.jcci.or.jp> )でもご覧になれます。

**業況DIは3カ月連続改善も、原材料価格等の上昇、金利引き上げの影響あり**

4月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（26.0）よりマイナス幅が0.7ポイント縮小して25.3となり、3カ月連続でマイナス幅が縮小した。

産業別の業況DIは、製造、卸売、サービスでマイナス幅が拡大したものの、他の2業種で縮小した。

景気に関する声、当面する問題としては、受注確保、消費好調、売上増加、先行き期待という声が寄せられている一方、天候不順による消費の低迷など業況低迷、仕入コスト・借入金利の上昇による採算悪化などを訴える声も聞かれる。

【建設業】では、「一旦落ち着いた銅価格が再び高騰している」（電気工事）「材料費が再び値上がりすると聞き、懸念している」（管工事）と、仕入コストの上昇を訴える声のほか、「金利の引き上げは、民間の設備投資意欲に響いている」（建築工事）と、借入金利上昇を指摘する声も寄せられている。

【製造業】では、「春の新モデルへの切り替えに合わせ、受注が緩やかに伸びている」（電子部品製造）「仕事量が多く、多忙である」（一般産業用機械製造）との声がある一方、「今後の原材料価格の変動によっては、収益が悪化する恐れがある」（金属加工機械製造）「金融機関が設定する貸出金利が上昇し始めており、今後、企業間格差も出てくるのではないか」（ブリキ缶等製造）と、仕入コストや借入金利上昇への懸念を訴える声も寄せられている。

【卸売業】では、「国内需要は伸びてきている」（建築材料卸売）との声がある一方、「業績が少しも向上しない」（農畜産水産物卸売）「食品関係の売上が伸びない。業績は悪化傾向にある」（各種商品卸売）「売上は前年よりも若干減少した。変動幅は少ないものの、向こう3カ月の先行きに不安が残る」との声も寄せられている。

【小売業】では、「春物商品の動きがよく、業況は少しずつ改善している」（商店街）「フレッシュマンを対象とした春物衣料品が好調だった」（百貨店）との声がある一方で、「天候不順の影響か、衣料品を中心とした季節物商品の売上が伸びず、在庫過多となっている」（商店街）「景気回復との報道がなされているが、小売業では未だ景気回復を感じられない」（その他の小売）との声も寄せられている。

【サービス業】では、「景気回復基調の持続を反映し、荷動きは回復へ向かっている」（運送業）との声がある一方で、「従業員の報酬を減額するまでに落ち込んでおり、景気回復を望んでいる」（旅館）との声のほか、「借入金利の上昇分を価格に転嫁することができないため、業況が悪化する恐れがある」（旅館）との声も寄せられている。

売上面では、全産業合計の売上DIは、マイナス幅が0.8ポイント拡大して20.3となり、3カ月ぶりに拡大した。産業別にみると、DI値は建設、小売でマイナス幅が縮小したものの、他の3業種で拡大した。

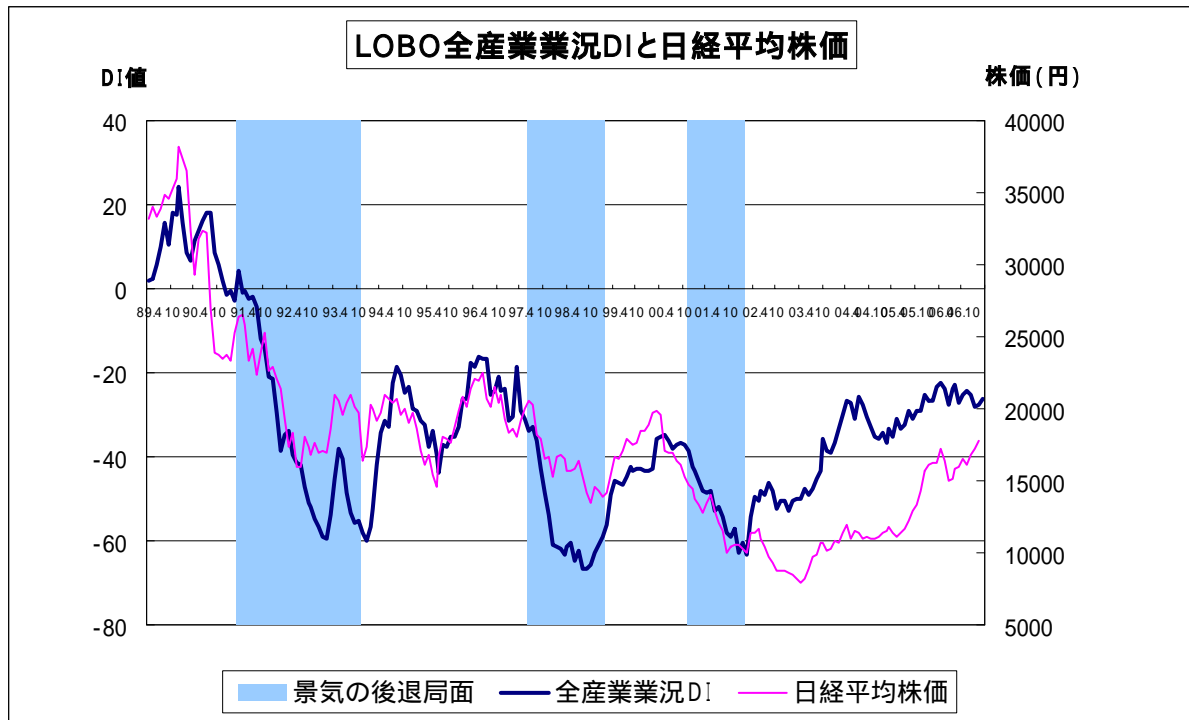
採算面では、全産業合計の採算DIは、マイナス幅が0.9ポイント拡大して25.6となり、3カ月ぶりに拡大した。産業別にみると、DI値のマイナス幅は卸売、サービスで縮小したものの、他の3業種で拡大した。

資金繰り面では、全産業合計の資金繰りDIは、悪化超感が1.8ポイント弱まって18.3となり、2カ月ぶりに弱まった。産業別にみると、DI値の悪化超感は製造、卸売で強まったものの、他の3業種で弱まった。

仕入単価面では、全産業合計の仕入単価DIは、上昇超感が2.4ポイント強まって25.6となり、2カ月連続で強まった。産業別にみると、DI値の上昇超感卸売、サービスで弱まったものの、他の3業種で強まった。

従業員面では、全産業合計の従業員DIは、不足超感が0.1ポイント強まって0.6となった。産業別にみると、DI値はサービスで不足超感が弱まり製造で過剰超感に転じる一方、建設、卸売で過剰超感が弱まり小売で不足超感が強まった。

向こう3カ月(5月~7月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が20.9と、昨年同時期の先行き見通し(18.6)に比べて悪化している。



【業況についての判断】

4月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（ 26.0 ）よりマイナス幅が0.7ポイント縮小して 25.3となり、3カ月連続でマイナス幅が縮小した。

産業別にみると、製造、卸売、サービスでマイナス幅が拡大したものの、他の2業種で縮小した。

向こう3カ月（5月～7月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I（今月比ベース）が 20.9と、昨年同時期の先行き見通し（ 18.6 ）に比べて悪化している。

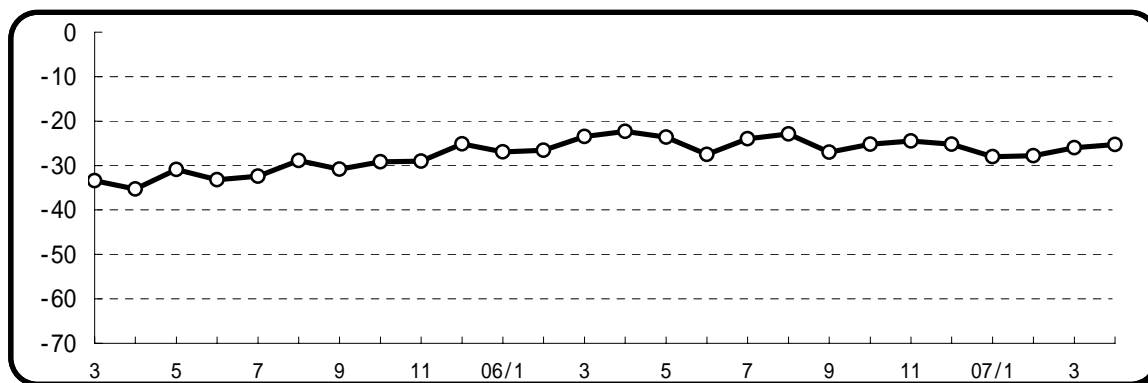
産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、サービスでマイナス幅が縮小しているものの、他の4業種で拡大している。

業況D I（前年同月比）の推移

|      | 18年<br>11月 | 12月  | 19年<br>1月 | 2月   | 3月   | 4月   | 先行き見通し<br>5～7月  |
|------|------------|------|-----------|------|------|------|-----------------|
| 全産業  | 24.5       | 25.2 | 28.0      | 27.8 | 26.0 | 25.3 | 20.9<br>( 18.6) |
| 建設   | 39.6       | 34.4 | 40.4      | 41.5 | 42.8 | 36.8 | 37.5<br>( 32.6) |
| 製造   | 11.3       | 15.2 | 18.1      | 14.3 | 14.5 | 20.6 | 19.3<br>( 12.9) |
| 卸売   | 36.6       | 31.3 | 31.9      | 35.8 | 37.7 | 38.2 | 26.3<br>( 18.2) |
| 小売   | 22.8       | 25.6 | 28.7      | 30.0 | 25.4 | 19.8 | 14.2<br>( 12.3) |
| サービス | 25.7       | 27.0 | 28.1      | 27.2 | 23.7 | 23.9 | 17.4<br>( 23.9) |

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しD I  
（ ）内は昨年4月の先行き見通しD I < 以下同じ >

《業況D I（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

売上面では、全産業合計の売上D Iは、マイナス幅が0.8ポイント拡大して20.3となり、3カ月ぶりに拡大した。産業別にみると、D I値は建設、小売でマイナス幅が縮小したものの、他の3業種で拡大した。

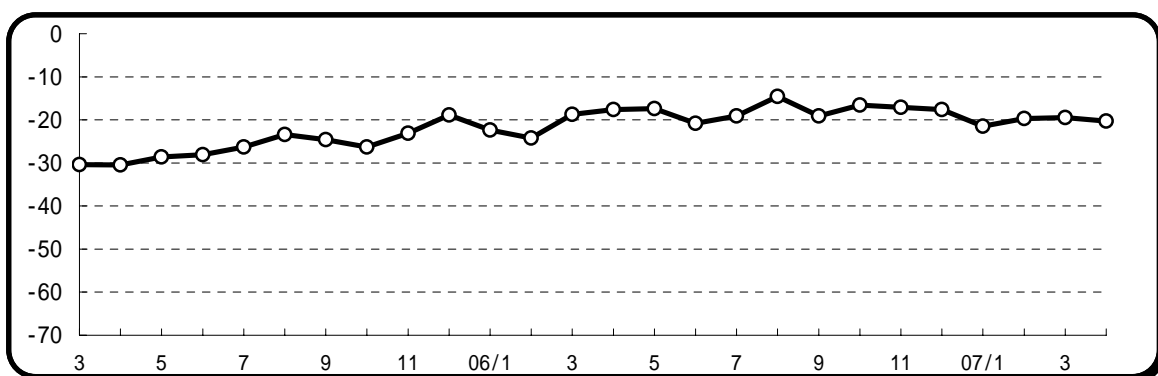
向こう3カ月(5月～7月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I(今月比ベース)が16.6と、昨年同時期の先行き見通し(12.6)に比べて悪化している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、サービスでマイナス幅が縮小しているものの、他の4業種で拡大している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

|      | 18年<br>11月 | 18年<br>12月 | 19年<br>1月 | 2月   | 3月   | 4月   | 先行き見通し<br>5～7月 |
|------|------------|------------|-----------|------|------|------|----------------|
| 全産業  | 17.1       | 17.6       | 21.5      | 19.7 | 19.5 | 20.3 | 16.6<br>(12.6) |
| 建設   | 32.4       | 27.3       | 29.7      | 30.0 | 35.8 | 34.8 | 36.7<br>(32.3) |
| 製造   | 2.9        | 4.2        | 8.9       | 0.5  | 6.5  | 9.3  | 15.0<br>(2.0)  |
| 卸売   | 30.7       | 22.5       | 29.4      | 33.3 | 34.4 | 36.3 | 24.4<br>(13.6) |
| 小売   | 20.7       | 19.5       | 26.6      | 26.0 | 19.7 | 18.5 | 10.3<br>(8.1)  |
| サービス | 18.3       | 20.9       | 20.0      | 20.0 | 16.8 | 18.1 | 9.1<br>(16.4)  |

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

採算面では、全産業合計の採算D Iは、マイナス幅が0.9ポイント拡大して25.6となり、3カ月ぶりに拡大した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は卸売、サービスで縮小したものの、他の3業種で拡大した。

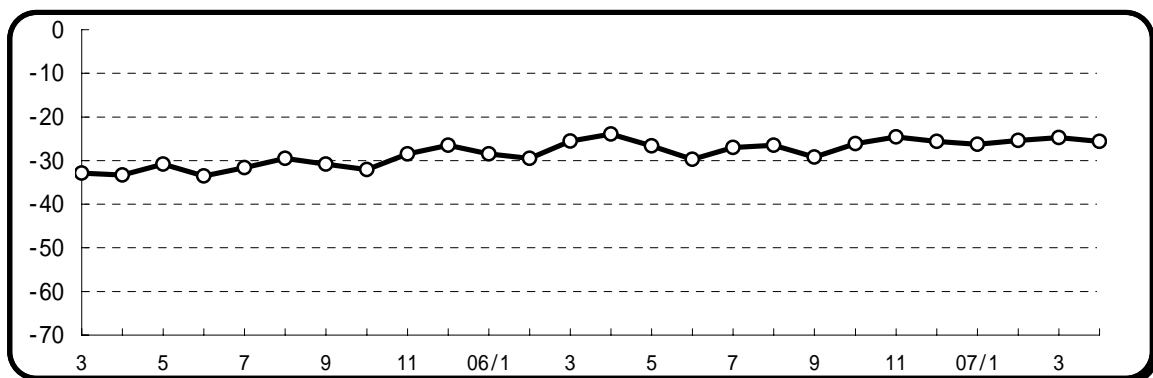
向こう3カ月(5月～7月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が20.4と、昨年同時期の先行き見通し(20.7)に比べて改善している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、建設、製造、小売でマイナス幅が拡大しているものの、他の2業種で縮小している。

採算D I(前年同月比)の推移

|      | 18年<br>11月 | 12月  | 19年<br>1月 | 2月   | 3月   | 4月   | 先行き見通し<br>5～7月 |
|------|------------|------|-----------|------|------|------|----------------|
| 全産業  | 24.6       | 25.6 | 26.3      | 25.4 | 24.7 | 25.6 | 20.4<br>(20.7) |
| 建設   | 43.8       | 43.0 | 41.4      | 36.2 | 39.9 | 41.2 | 39.5<br>(37.3) |
| 製造   | 16.2       | 18.8 | 20.4      | 16.0 | 20.9 | 24.1 | 21.2<br>(15.4) |
| 卸売   | 29.4       | 30.6 | 31.3      | 31.4 | 34.4 | 32.5 | 18.6<br>(18.8) |
| 小売   | 19.1       | 18.5 | 24.1      | 25.4 | 17.5 | 19.6 | 13.6<br>(13.3) |
| サービス | 25.5       | 27.8 | 23.6      | 25.9 | 24.2 | 21.2 | 15.6<br>(25.4) |

《採算D I(全産業・前年同月比)の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

|      | 18年<br>11月 | 12月  | 19年<br>1月 | 2月   | 3月   | 4月   | 先行き見通し<br>5~7月 |
|------|------------|------|-----------|------|------|------|----------------|
| 全産業  | 16.6       | 17.6 | 19.6      | 19.5 | 20.1 | 18.3 | 16.8<br>(15.7) |
| 建設   | 27.3       | 29.5 | 30.5      | 29.6 | 36.8 | 27.5 | 29.2<br>(28.6) |
| 製造   | 12.7       | 13.9 | 14.0      | 11.1 | 12.5 | 13.2 | 13.9<br>(9.7)  |
| 卸売   | 14.5       | 19.3 | 18.5      | 19.0 | 18.6 | 20.4 | 16.7<br>(8.1)  |
| 小売   | 12.5       | 13.6 | 19.6      | 21.5 | 17.6 | 16.0 | 13.0<br>(13.9) |
| サービス | 18.9       | 17.1 | 18.4      | 19.6 | 20.8 | 19.4 | 16.3<br>(18.7) |

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は悪化超感が2カ月ぶりに弱まった。産業別にみると、製造、卸売で悪化超感が強まったものの、他の3業種で弱まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は悪化超感が強まる見通し。産業別にみると、小売、サービスで悪化超感が弱まる一方、他の3業種で強まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

|      | 18年<br>11月 | 12月  | 19年<br>1月 | 2月   | 3月   | 4月   | 先行き見通し<br>5~7月 |
|------|------------|------|-----------|------|------|------|----------------|
| 全産業  | 24.4       | 26.0 | 21.8      | 21.0 | 23.2 | 25.6 | 20.0<br>(19.2) |
| 建設   | 35.6       | 38.0 | 34.1      | 34.1 | 35.8 | 39.9 | 29.3<br>(26.8) |
| 製造   | 41.4       | 42.9 | 40.0      | 34.8 | 41.7 | 41.5 | 31.3<br>(29.1) |
| 卸売   | 24.2       | 27.5 | 15.0      | 20.1 | 25.8 | 27.6 | 18.7<br>(19.0) |
| 小売   | 10.9       | 8.7  | 7.5       | 6.9  | 10.1 | 9.4  | 9.4<br>(8.9)   |
| サービス | 16.3       | 20.4 | 15.0      | 15.6 | 11.5 | 18.0 | 15.3<br>(16.1) |

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は上昇超感が2カ月連続で強まった。産業別にみると、製造、小売で上昇超感が弱まる一方、他の3業種で強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は上昇超感が強まる見通し。産業別にみると、卸売、サービスで上昇超感が弱まる一方、他の3業種で強まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

|      | 18年<br>11月 | 12月  | 19年<br>1月 | 2月   | 3月   | 4月   | 先行き見通し<br>5～7月  |
|------|------------|------|-----------|------|------|------|-----------------|
| 全産業  | 0.4        | 2.7  | 0.2       | 0.6  | 0.5  | 0.6  | 2.0<br>( 1.8)   |
| 建設   | 13.4       | 12.9 | 14.7      | 14.7 | 16.1 | 14.1 | 16.9<br>( 16.6) |
| 製造   | 3.2        | 3.9  | 0.0       | 3.6  | 1.8  | 0.2  | 3.8<br>( 3.8)   |
| 卸売   | 3.3        | 1.3  | 5.0       | 6.9  | 5.3  | 3.8  | 4.5<br>( 4.5)   |
| 小売   | 5.5        | 8.2  | 6.0       | 5.9  | 8.5  | 10.1 | 6.3<br>(5.9)    |
| サービス | 1.7        | 7.0  | 3.4       | 3.9  | 1.8  | 1.4  | 1.2<br>(1.6)    |

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は2カ月ぶりに不足超感が強まった。産業別にみると、サービスで不足超感が弱まり製造で過剰超感に転じる一方、建設、卸売で過剰超感が弱まり小売で不足超感が強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は過剰超感が強まる見通し。産業別にみると、小売で不足超感が強まる一方、製造、卸売で横ばい、サービスで不足超感が弱まり建設で過剰超感が強まる見通し。



【平成19年4月の景気キーワード】

景況一進一退

ヒアリング先からは、「業況は、総じて順調に推移している。安定した引き合いがあり、先行きも明るい見通し」(新居浜・一般産業用機械製造)「衣料品や住居関連商品の売上が徐々に回復している」(大川・その他の小売)とのコメントが寄せられている。一方、「公共工事の減少が続いており、建設業界では厳しい状況が続いている」(甲府・一般工事)「突発的な受注はあるものの、安定した受注は未だに乏しく、確保に苦慮している」(熊本・その他製造)「衣料品の売上が伸びず、経営状態はよくない。先行き見通しも厳しい」(帯広・商店街)「景気の回復はまったく感じられない。不況と言っても過言ではない。地域間格差が非常に大きい」(理容・会津喜多方)といったコメントも寄せられている。

仕入コスト上昇

また、原材料価格の高騰による仕入コストの上昇を訴える声が寄せられている。建設、製造からは、「落ち着いていた銅価格が再び高騰している。見積書の提出には最新の注意が必要」(新発田・電気工事)「材料費の値上がりが続いており、いつ上げ止まるか見通しが見えない」(函館・一般産業用機械製造)「アルミ、真鍮の価格が上昇している」(さいたま・金属加工機械製造)「自動車関連を中心とする受注量は順調だが、受注先からのコストダウン要請と、一部の原材料不足による価格の上昇が止まらない」(高崎・自動車・付属品製造)との声が寄せられている。また、サービスからは、「軽油価格が上昇傾向にあり、採算を悪化させている」(石岡・その他サービス)といったコメントも寄せられている。

日銀利上げ後の影響

一方、日銀利上げ後の企業経営、個人消費への影響に関する声も聞かれている。建設、製造からは、「金利が上昇し、資金調達に支障がある」(唐津・建築工事)「地元銀行が貸出金利引き上げの意向を示している」(函館・一般産業用機械製造)との声が寄せられている。また、小売、サービスからは、「借入金利の上昇により、今後採算が悪化する恐れがある」(渋川・商店街)「若干ではあるが、支払利息が上昇傾向にある」(四日市・百貨店)「住宅ローン金利の引き上げ等による消費者の心理的な消費控えが懸念される」(柏崎・すし店)といったコメントも寄せられている。

【景気キーワードの推移】

| 年   | 月  | 景気キーワード |         |            |
|-----|----|---------|---------|------------|
| 19年 | 2月 | 景況一進一退  | 暖冬の影響   | 借入金利引き上げ懸念 |
|     | 3月 | 景況一進一退  | 仕入コスト上昇 | 日銀利上げ後の影響  |
|     | 4月 | 景況一進一退  | 仕入コスト上昇 | 日銀利上げ後の影響  |

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

本文中の( )内は、(地名・業種)を示す。

【産業別概況】

| 産 業  | 概 況   |
|------|---|
| 建 設  | 業況・売上D Iは4カ月ぶりにマイナス幅が縮小し、採算D Iは2カ月連続で拡大した。「主力取引先の鉄鋼が好調であるため、出荷量が大幅に増加している」(建築工事)との声がある一方、「公共事業の減少と一般競争入札の導入等により、生き残りをかけた競争が激化している」(建築工事)「鋼材やステンレスなど建設資材の値上げや建設機械のリース料の上昇など、中小建設業者を中心に下請企業には厳しい状況が続くと予想される」(一般工事)といった声も寄せられている。  |
| 製 造  | 業況・売上・採算D Iともに2カ月連続でマイナス幅が拡大した。「好調な外需により高水準での生産が続いており、先行きにも大きな懸念はない」(金属加工機械)「アジア市場向けの輸出が回復してきている。円安により収益面で好転がみられる」(繊維機械製造)との声がある一方、「景気上昇感はない。売上も減少しており先行きが不安である。また、アルミや真鍮の価格が高騰している」(金属加工機械製造)「仕入単価が依然として高水準で推移しており、収益を圧迫している」(金属加工機械製造)といった声が寄せられている。                          |
| 卸 売  | 業況・売上D Iは4カ月連続でマイナス幅が拡大、採算D Iは7カ月ぶりに縮小した。「業況は特に大きな変化はないが、選挙の影響か、紙や日用品雑貨の売上が増加した」(衣服・日用品卸売)との声がある一方、「依然として景気の回復感は乏しく、前年並みの売上が確保できればいい方だ」(各種商品卸売)「販売先企業が数件廃業し、売上は減少する見込み」(繊維品卸売)「和装関係の売上が昨年に比べ減少した。前月同様、活気がなく、業況は依然として厳しい」(衣服・日用品卸売)「売上は前年に比べやや下降している」(農畜産水産物卸売)といった声が寄せられている。    |
| 小 売  | 業況D Iは2カ月連続、売上D Iは3カ月連続でマイナス幅が縮小し、採算D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「来店者数が増加しており、好調傾向は続く見込み。寒暖の差は大きい、初夏物商品の動きは活発」(百貨店)「衣料品部門は依然として苦しいが、花見等の影響か、食料品部門は順調に推移している」(百貨店)との声がある一方、「季節商品や高額商品にやや動きが見られるが、全般的に苦戦している。個人消費の回復にはほど遠い」(百貨店)「来店者数の減少に伴い、売上も減少している。特に衣料品、家電が苦戦している」(商店街)といった声が寄せられている。 |
| サービス | 業況D Iは3カ月ぶり、売上D Iは4カ月ぶりにマイナス幅が拡大し、採算D Iは2カ月連続で縮小した。「景気回復の兆しを感じる」(理容)「荷動きは引き続き前年を上回る傾向にある。先行きに期待したい」(その他サービス)との声がある一方、「借入金利の上昇分を価格に転嫁することができないため、業況の悪化が懸念される」(旅館)「景気回復どころか、一層悪化しているように感じる」(理容)といった声が寄せられている。   |

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、北陸信越、東海、中国でマイナス幅が拡大したものの、他の6ブロックで縮小した。なお、全ブロック合計は3カ月連続でマイナス幅が縮小した。

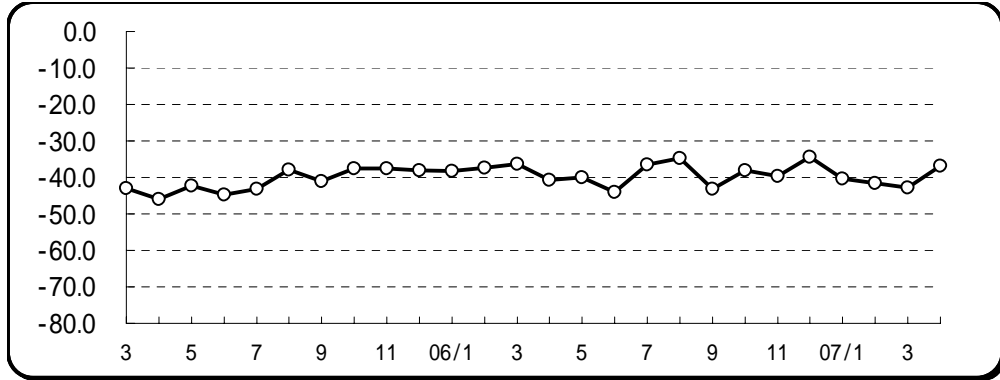
ブロック別の向こう3カ月(5月~7月)の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、東北、関東で改善しているものの、他の7ブロックで悪化している。なお、全ブロック合計は悪化している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

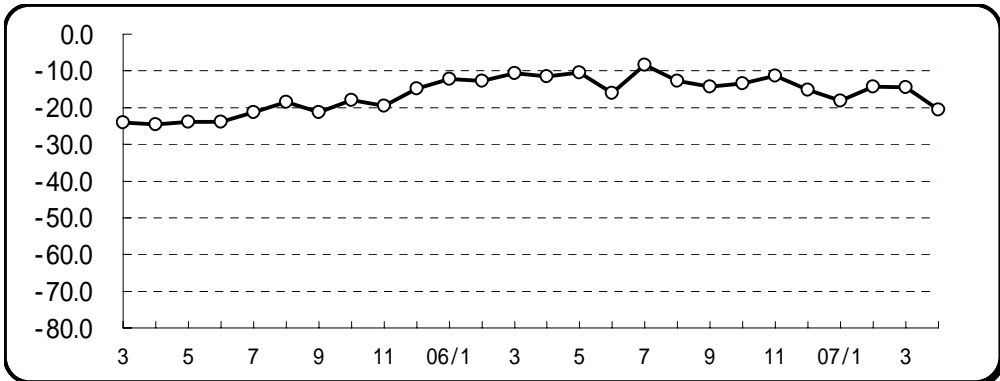
|      | 18年  |      | 19年  |      |      |      | 先行き見通し<br>5~7月  |
|------|------|------|------|------|------|------|-----------------|
|      | 11月  | 12月  | 1月   | 2月   | 3月   | 4月   |                 |
| 全 国  | 24.5 | 25.2 | 28.0 | 27.8 | 26.0 | 25.3 | 20.9<br>( 18.6) |
| 北海道  | 26.4 | 32.7 | 39.8 | 39.0 | 41.0 | 27.4 | 26.4<br>( 24.1) |
| 東 北  | 24.5 | 27.4 | 29.3 | 36.7 | 29.2 | 27.0 | 23.4<br>( 26.1) |
| 北陸信越 | 16.5 | 11.7 | 17.0 | 14.0 | 23.7 | 27.0 | 25.4<br>( 17.9) |
| 関 東  | 23.1 | 23.4 | 25.2 | 23.4 | 22.2 | 20.2 | 12.2<br>( 13.9) |
| 東 海  | 15.6 | 22.4 | 19.0 | 19.8 | 17.8 | 23.5 | 23.0<br>( 11.4) |
| 近 畿  | 34.4 | 26.4 | 33.1 | 34.2 | 25.4 | 24.2 | 21.5<br>( 19.3) |
| 中 国  | 29.4 | 26.5 | 32.1 | 35.0 | 28.8 | 37.2 | 28.7<br>( 25.7) |
| 四 国  | 32.1 | 38.6 | 40.0 | 33.6 | 34.0 | 32.3 | 29.8<br>( 25.9) |
| 九 州  | 19.8 | 27.0 | 25.0 | 28.6 | 24.8 | 22.2 | 17.0<br>( 16.8) |

# 業況DI (前年同月比)の推移 (全国)

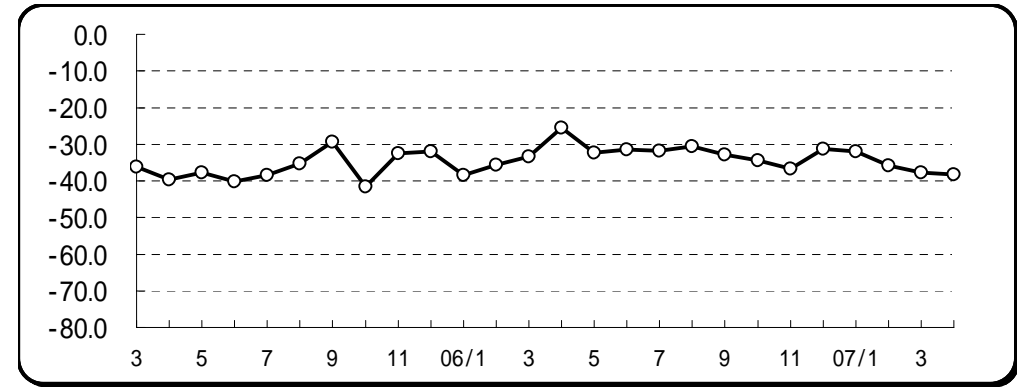
## 建設業



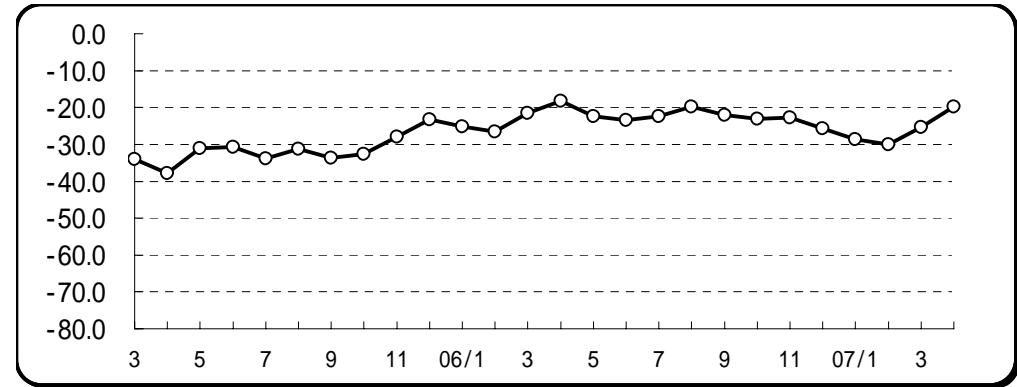
## 製造業



## 卸売業



## 小売業



## サービス業

